

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和5年1月17日（火） 午後2時

閉 会 年 月 日

令和5年1月17日（火） 午後2時42分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 重 田 誠

委 員 神 宮 嘉 一

委 員 田 野 内 明 美

委 員 塩 野 有 希

事 務 局（説明員）

教育部長 小 見 幸 雄

公民館担当部長 川 嶋 昭 人

学校教育担当部長 山 崎 幹 夫

社会教育課長 茂 原 久 美 子

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 依 田 哲 夫

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 清 水 さ と み

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

1月17日	会議に附した事件
議案第1号	令和5年度高崎市一般会計予算教育費見積書の提出について
報告連絡事項	令和4年度コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学大臣表彰の受賞について
	令和4年度文部科学大臣表彰等の受賞について
	令和4年度優良公民館文部科学大臣表彰の受賞について

高崎市教育委員会 1月定例会会議録

教育長（飯野眞幸）

それでは、これより高崎市教育委員会 1月定例会を開会いたします。

議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、重田教育長職務代理者と塩野委員を指名させていただきます。よろしくお願ひいたします。

日程第3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

それでは、本日の議事に入ります。

議案第1号「令和5年度高崎市一般会計予算教育費見積書の提出について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いいたします。

（小見 教育部長 から秘密会の申し入れ）

教育長（飯野眞幸）

ただいま事務局から、秘密会での審議の申し入れがありましたけれども、議案第1号の審議を秘密会とすることに、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議ないようですので、秘密会とさせていただきます。

（秘密会）

教育長（飯野眞幸）

それでは、秘密会による審議を終了いたします。

教育長（飯野眞幸）

続きまして、報告連絡事項に移ります。「令和4年度コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学大臣表彰の受賞について」から「令和4年度優良公民館文部科学大臣表彰の受賞について」までの説明をお願いします。

（茂原 社会教育課長 説明）

（長岡 健康教育課長 説明）

（藍 中央公民館長 説明）

教育長（飯野眞幸）

文部科学大臣表彰は、3件とも非常に良い成果かなと思います。学校保健なども高崎市は国から褒められるくらい伝統的に一生懸命やっているということで、今回も非常に励みになると思います。ご質問などありますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

以上で、予定していた議事の審査は終了いたしました。事務局の方から、何か報告等ありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

事務局からはないようですが、委員の皆様から、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

委員（神宮嘉一）

部活動の地域移行の状況について伺わせていただきます。確か2023年度から3年間で、休日の地域移行を完了するという話だったのが、年末くらいに捉え方が緩和されたという報道を見ました。高崎市は、こういった形で休日の地域移行というのを進めていくのか、ガイドライン的なものがあればお聞かせいただきたいと思います。

健康教育課長（長岡誠）

初めは改革集中期間と言われていたものが少しトーンダウンして改革推進期間となりました。地域の実情に応じて、段階的に休日の部活動を移行していくというふうになってきました。高崎市としては、子どもたちが安心して取り組める環境を整えるために、関係機関と調整をしながら、環境整備などの課題をどのようにして解決していったらいいかということを検討しているところです。また、県の部活動のあり方検討委員会に私が参加しており、そこで色々な課題などをどう解決していくかということが出ていますので、それを踏まえながら、高崎市ではこういったことができるか、国、県の動向を踏まえて準備を整えていきたいと考えております。

委員（神宮嘉一）

これは運動部だけに限ったことでない前提で話していますが、今年の高校ラグビーの花園大会で、1県1校の出場になってから、今年初めて予選を経ずして出場した地域というのがあったそうです。他にも予選会の出場校が3校以下の地域というのが、全国的に10件くらいあるということが話題になっていました。特に大人数を必要とする集団スポーツや、文化部では合唱部や吹奏楽部が該当すると思うのですが、これからますます子どもが少なくなると、地域的に違いが出てくると思います。やりたくても参加できないとか、指導者が確保できないということで、そういった事が起きかねませんし、現実には起きているかもしれません。私は教育を受ける機会というのが極力均等であってほしいと思っています。大きいところは集団的なものができるけども、小規模校は参加する機会すらないということが、あまりにも色濃く出てしまうのはどうかと思っています。休

日などを含めて、一部のところには得意な指導者がいるけれども、一部のところにはそういう人がいないとなると、結局、何の改善もなしに今の状況がどんどん進んでしまうのかなと思います。できることを1つずつ改善していただきたいなと思います。

教育長（飯野眞幸）

健康教育課長、何かありますか。

健康教育課長（長岡誠）

地域によって、子どもたちが参加できないという不利益がないように、できるだけという仕組みを作るのが良いのか、地域によって色々なやり方がございますので、先進的な事例などの情報を参考にしながら進めていきたいと考えております。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

教育長職務代理人（重田誠）

子どものメンタルヘルスというか、少し精神的な問題を抱える子どもが増えているような感じがしています。それとは別に、先生のメンタルヘルス、先生自体のストレスが高いということで、先生の就業時間やストレスを減らそうという、働き方改革の方向にあるかと思いますが、やはり先生にかかる負担はかなり高いと思います。それは、物理的な時間もそうですし、心理的なストレスも高いと思いますが、特に、このコロナ禍でさらに大変だと思います。メンタルヘルスのことで、カウンセリングが入るとは思いますが、メンタルヘルスが原因で休まれている先生は増えているのでしょうか。また、働き方改革に絡んで、職員の負担軽減はどの程度進んでいるのか教えてください。

教職員課長（岡田朝夫）

初めにメンタルヘルスのお話ですが、ここ数年で大きな増加はないのですが、増えてきている傾向にあると考えております。働き方改革については、学校ごとに多少差が出てきていますが、高崎市全体の平均は、群馬県の平均よりも少し良いくらいの状況です。今後も改善すべきところは、まだまだ改善していかないと考えています。

教育長職務代理人（重田誠）

ストレスチェックで高ストレス者の数とか、あるいは高ストレス者の中でカウンセリングを受ける人の数はどうでしょうか。高ストレスになってもカウンセリングは自分から申し出ないといけないことや人の目があるからやらないという人も多いと思います。高ストレス者の数やカウンセリングを受ける人の数が増えていないか、状況はいかがでしょう。

健康教育課長（長岡誠）

今は正確な資料が無いのですが、割合では10パーセントは切っていると思います。医師との面談については非常に少ない状況です。校長面談は、各学校でしっかりやっけてはいただいているのですが、医師までとなるとハードルが高いようです。

教育長職務代理人（重田誠）

高ストレスであっても、やはり校長先生や医師の面談を受けるのは、なかなかハードルが高い感じです。その時に、本人が大丈夫なら良いのですが、色々な抑制的なものがあるって行かないのかもしれないので、少しチェックした方がいいですね。

健康教育課長（長岡誠）

ストレスチェックは導入した当時の課題ですので、また検討していきたいと思っています。

教育長（飯野眞幸）

全国的にも職員のメンタルヘルスについては、増加傾向にあるということで、新聞紙上で論議されています。面談をする中で、それで解決するというのはなかなか難しく、次のステップとして、医師のところへ行くというのは少しハードルが高いのかなと思います。校内で抑制させるということは無いと思うのですが、本人が一步先に進めないという、そういう部分があるのかなという感じがします。

教育長職務代理人（重田誠）

校長先生がストレスになっていることもありますでしょうか。

教育長（飯野眞幸）

校長がストレスの原因になるということも、場合によればあるのかもしれない。

教育長職務代理人（重田誠）

なかなか難しいですね。

教育長（飯野眞幸）

一頃から比べると、パワハラという言葉が非常に大きくウエイトを占めていて、校長や教頭は、その言葉をかなり気にしながらやっているという感じがします。それでも、相性の問題を含めれば、結構あるのかもしれない。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

委員（田野内明美）

先日、マスクに関する新聞記事の中で、脱マスク宣言をした、ある会社の独自の取組を紹介する記事の中で、子どものマスクのことに触れていました。顔の学習は人間関係を築く上でとても重要で、成長期に顔を見ない生活は社会性が十分に身につかない恐れがあるという一文がありました。今年のやるベンチャーで、中学2年生の生徒が4校で12人くらい私の会社にも来ていただきました。小学校6年生からマスクを着けて、3年経って「マスクを外したくないですか」と聞きましたら、「絶対に外したくない」と言うのです。その理由は、まずは「自分の顔を見られたくない」ということと、「マスクを外してしまうと、誰が誰だか分からない」と言うのです。マスクをした顔で友達を覚えているので、マスクを外されてしまうと、誰だかわからないということなのです。

自分を分かってもらうために外したくないし、外さないという、これはリアルなコメントだなどと思いました。また、やるベンチャーのことでは、「どういうことをやりたいですか」と聞きましたら、履歴書を書いてきてくれました。その中に「達成感を味わいたいです」というコメントがありました。これは、なかなか大人な意見だなどと思いました。そのことを受けて、20分くらいの番組を作ってもらいました。企画、構成、選曲の全部をやってもらいましたが、こちらのスタッフも真剣にやった結果、「非常に楽しかった」とコメントをもらえたので良かったです。お礼状もいただきまして、とても嬉しく皆で読んだのですが、その中に「仕事って辛いものとばかり思っていたのですが、こんなに楽しいこともあるのですね」という一文が書いてありました。とても正直な感想で良かったです。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。

先日のニュースで厚生労働省もマスクの使い方については、今後検討していくということを抑っていました。ただ、子どもたちがマスクを外すと誰だかわからなくなってしまふとは、それは驚きですね。我々とは少し違う感覚を持った子どもたちがいるということですね。

委員（田野内明美）

普通、思わないような感覚を持っていますね。

教育長（飯野眞幸）

他にはいかがでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。以上をもちまして、教育委員会1月定例会を閉会させていただきます。本日は大変ご苦勞様でした。